

## 巻頭言

教育推進・学生支援機構 機構長 江馬 諭

「飛騨・美濃・尾張地域の新産業の牽引に必要な、マネジメント力、コミュニケーション力、協調性、創造性に富み、国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想を身につけた人材の養成」を目的として、平成22年7月にイノベーション創出若手人材養成センターが開設され、イノベーションスキル・プログラムと産学連携教育プログラムが実施されてきました。その後、センターの取組は、イノベーション創出若手人材養成プログラムとして教育推進・学生支援機構（キャリア支援部門）に引き継がれ、現在も継続しています。

平成28年度には、イノベーションスキル・プログラムであるエンライトメント・レクチャー（1単位）、ビジネス英語（2単位）、アイデア・トレーニング・キャンプ

（1単位）が開講されます。このプログラムは、博士課程に在籍している間いつでも参加できます。さらに、これらの座学を修了した学生さんは産学連携教育プログラムである学外研修に出かけることも可能です。



皆さんが研究室で実験したり解析したりしている研究テーマについて、他の領域の学生さんや様々な国から留学している学生さんと意見交換しませんか。皆さんの研究テーマの意義や価値がブラッシュアップされ、今後の研究が一層楽しくなると思います。

## 平成27年度活動報告

教育推進・学生支援機構 特任教授 坂口菜叶子

今年度は第6期生として2名が参加している他、講義のみを自由に受講する聴講生として工学研究科、連合農学研究科から延べ30名の博士後期課程学生が参加しました（そのうち約半数が留学生でした）。彼らは今年度前期には以下3つのプログラムを受講しました。

- ①エンライトメント・レクチャー（多業種の企業リーダーによる講義）
  - ②ビジネス英語（ネイティブによる英語プレゼンテーションの講義・演習）
  - ③アイデア・トレーニング・キャンプ（異分野の参加者間の議論を通じて、問題発掘・解決能力を養う集中講義）
- プログラムを受講した学生からは毎年、「視野が広がった」「異なる研究室・研究科の友人ができた」との感想が

聞かれます。

3つのプログラムは博士後期課程在籍者・ポスドクターであればどなたでも履修できます。平成28年度の参加者を1月から募集します。詳しくは募集要項をご覧ください。



## 平成28年度の予定

詳しくは「募集要項」をご覧ください

	聴講生	プログラム研修生
応募資格	平成28年度のD1～D3 ポストドクター（PD） ※国費留学生・社会人可	平成28年度のD1～D3 博士号取得後5年以内のPD ※国費留学生・社会人は不可
応募期間	2016年1月15日（金） ～ 3月25日（金）	2016年1月15日（金） ～ 2月29日（月）
面接	なし（書類提出のみ）	あり（書類審査合格後）
受講できるプログラム	イノベーションスキル・プログラム※の少なくとも1つ	イノベーションスキル・プログラム全て（受講必須） インターンシップ（2ヶ月～）
受講期間	平成28年度前期 一度履修登録すれば修了 または退学まで有効	D2・D3・PD：平成28年度のみ D1：平成28年度前期（講義）+ 平成29年度（インターンシップ）



## プログラムの感想

平成27年度聴講生（ビジネス英語受講）

連合農学研究科スマートマテリアル科学連合講座 1年 中本航介

私は以前より英語を用いたコミュニケーション能力に不安を感じていたため、27年度のイノベーションプログラムのうち、ビジネス英語のクラスに参加しました。クラスの前半では、プレゼンテーションの基本的なルールやテクニックを学び、後半は実際に英語を用いたプレゼンテーションの練習を行いました。先生は技術職としての経験があるイギリス出身の気さくな方で、講義内容は英会話表現だけでなく、発表構成や発表方法など研究内容をプレゼンテーションする上で重要となる能力を幅広く会得できるものでした。クラスでのプレゼンテーション発表で

は、毎回先生から個人への講評をいただけるので、回を重ねる度、技術の向上を実感することができました。そして本プログラムを受講した後、英語を用いたプレゼンテーションをする機会があり、そのうちの一件では、プレゼンテーション賞を受賞し、これまで不安に感じていた英語力に自信を持てるようになりました。



平成26年度受講生（すべてのプログラムを受講）

工学部機械工学科 産学官連携研究員（PD） 鈴木達博



私は修士の時の研究テーマが面白く、もっと深く掘り下げたいと思い博士課程に進学しました。学位取得後の進路は漠然と大学教員か公的研究機関に進もうと考えていました。しかし、研究を進めていくうちに自分の専門知識で社会に貢献するためには企業に就職した方が良くと考え始め、イノベーション創出若手人材養成プログラムに参加

しました。プログラムの講義では、プレゼンスキルや企業における研究者としての基礎知識・心構え、他分野の研究アイデアを学びました。そして、長期インターンシップに参加し実際の企業における研究開発を体験しました。そこでは現場からの要望をグループや部署の枠を越え、一丸となって乗り越えていく姿を間近で見て、専門知識だけでなくチームワーク・コミュニケーションが非常に大切であることを学びました。私の今後の目標はシーズからニーズまで一貫したモノづくりができる研究者・技術者となることです。

### 「実活用に繋がる開発ができる人材育成に期待」

鈴木さんのインターンシップ受入れのお話は、岐阜大学王先生から相談をいただきました。弊社における生産・製造技術領域の取組みをより多くの学生に知っていただきたいことと、鈴木さんの博士課程での金型の加工環境に関するテーマで培われた技術経歴および人柄を知り、我々の部署で研究開発テーマをチームで実施する形で取り組んでいただくことにいたしました。岐阜大学金型創成技術研究センターでは、モノづくりから開発および技術適応までの一貫の教育をされているうえ、イノベー

平成26年度長期インターンシップ受入企業

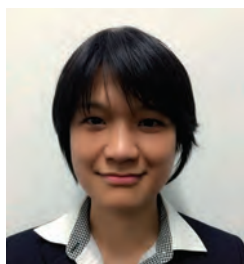
トヨタ自動車株式会社 車両工機部 山本博己

ション創出若手人材養成センターでのインターンシップは一般的な期間の2、3週間に比べ、3か月とじっくり時間がとれたため、我々の研究開発の推進についても十分にご理解をいただけたことと思います。今回のインターンシップを契機に技術交流を深めることができました。誠にありがとうございます。



平成26年度受講生の指導教員

工学部 化学・生命工学科 生命化学コース 准教授 リム リーフ



この度、当研究室のD生2名を「イノベーション創出若手人材養成」プログラムに参加させていただき誠にありがとうございます。研究室の外国籍学生の割合が高いため、両者とも学部生の時代から外国籍の学生との環境には慣れておりますが、日本人学生博士後期課程への進学率が伸びないという現実の中で、日本人学生との情報交換が思うようにできずにおりました。このプログラムを通して他の研究室の日本人D生との意見交換を深めることにより、多いに刺激を受

け、自分の研究者としての立場を見直す良いきっかけとなったように見受けられます。また、長期（3～6ヶ月間）の海外研修という機会を与えられることにより、今までと違う視点を得たのではないのでしょうか。彼らの体験談から私も刺激を受け、海外の企業・大学の環境（研究室の運営等を含め）に関心を寄せているところです。日本の大学・研究室の長所でもある勤勉さですが、少し視点を変えて力の抜け具合を意識すれば、かえって面白い発見が得られ、かつ転換による効率も追及できるのではと思えました。ぜひ今後の研究と研究室運営に生かして「楽しく、効率よく、やりがいのある研究室」を目指したいと思っております。

イノベーション創出若手人材連携育成会 会長

大日本土木株式会社 執行役員岐阜本店長 巾 淳二

既に数年を経て進歩を続ける当プログラムの目的は明確である。博士を初めとした高度な研究キャリアを持つ人材に、産業の牽引に必要なマネージメント能力、コミュニケーション能力、協調性、実社会に適応する発想力を養成することにある。

高度な研究者に対し企業人が抱く漠然とした不安感は、とりわけ不足しがちなコミュニケーション能力にあるのではないだろうか。私見だが、このプログラムの最大の効果は当該能力の養成にあり、時には語学力をも駆使して他分野研究者とのコミュニケーションを図ることで更なる養成が行われていると感じて

いる。そして幾たびか開催された報告会等では学生達の嬉々とした姿勢を感じ取ることが出来るし、前記能力の向上効果が、多くの学生自身の感想として語られている。会長として、また岐阜大学の一卒業生として、このプログラムにより確実な人材育成が達成され、社会に貢献することを期待するものである。

